

事業所名	グループホーム こもれびの家	※
日付	平成17年3月8日	
評価機関名	特定非営利活動法人 高齢者と痴呆の人のケアを大切にする会 LIFE SUPPORT推進グループ	
評価調査員	在宅介護経験8年	
評価調査員	在宅介護経験11年	
評価調査員	在宅介護経験8年	
評価調査員	在宅介護経験16年	
自主評価結果を見る		
評価項目の内容を見る		
事業者のコメントを見る(改善状況のコメントがあります！)		

番号	項目	できている	要改善
1	理念の具体化、実現及び共有	○	
記述項目	グループホームとしてめざしているものは何か 事業主は福祉への高い理想を持ち、「地元に戻りたい、地域に役立てたい」という思いを強く持っている。このことが、管理者と職員に思う存分に若い力を発揮出来るパワーとなっている。管理者も若いパワーだけでなく、グループホーム同志との交流や色々な研修にも参加して、認知症の高齢者の実態を知り、ゆっくり関わる方法をしっかりと考えている。 一人ひとりに残された能力を生かし、その人に合った役割を持って貰い、自信と充実感のある生活をして貰えるグループホームも目指していることが実感できる。		

番号	項目	できている	要改善
2	家庭的な共用空間作り	○	
3	入居者一人ひとりに合わせた居室の空間づくり	○	
4	建物の外回りや空間の活用	○	
5	場所間違ひ等の防止策	○	
記述項目	入居者が落ち着いて生活できるような場づくりとして取り組んでいるものは何か 広いリビングルームと堀コタツのある和室。広い廊下はゆったりと落ち着いて過ごせる空間となっている。車椅子に対応出来るように、廊下、トイレを広くし、調理台やテーブルにも工夫をして、身体が不自由でも活動しやすくしている。このように生活空間造りの中で、数え切れない位の工夫のあとが見られ、このことが利用者の落ち着いた暮らしを支えている。 キッチンからリビングルームや居室まで全て見渡せ、利用者の見守りが出来るし、利用者から職員の様も見え心強い。		

番号		できている	要改善
6	介護計画への入居者・家族の意見の反映	○	
7	個別の記録	○	
8	確実な申し送り・情報伝達	○	
9	チームケアのための会議	○	
10	入居者一人ひとりの尊重	○	
11	職員の穏やかな態度と入居者が感情表現できる働きかけ	○	
12	入居者のベースの尊重	○	
13	入居者の自己決定や希望の表出への支援	○	
14	一人でできることへの配慮	○	
15	入居者一人ひとりにあわせた調理方法・盛り付けの工夫	○	
16	食事を楽しむことのできる支援	○	

観評 全体を通して(特に良いと思われる点など) 『ここでは、のんびりしていいんだよ』オーナーの思いが、緑豊かな木々の隙間からの柔らかな日差しのように、利用者にも職員にも浸透し、ゆとりのある落ち着いた温かさを感じるグループホームである。 木肌豊かで、広さ明るさも申し分ない。日当たりが良く、広々としたウッドデッキと野菜や花のある屋外空間を中心として、居室とリビングがバランス良く配置されている環境は、「職員が利用者をゆっくりした時間で過ごさせてあげられる生活」が実現できる住まいの造りである。 対面式キッチンとリビングルームでは、調理や配膳の手伝い、食後は片付けや食器とお盆を拭いたり、テーブルや床の掃除等の家事を楽しそうにしている。男性の利用者も、とても楽しそうに微笑ましい。利用者同志のお話も、仲良く相槌を打ちながら楽しそう。2つのユニットの利用者同志行ったり来たりして、お互いの触れ合いを楽しんでいる。 午後のひと時、職員が「散歩に行く人いる？」の誘いに、「私も」「わたしも行く」と利用者が参加し、多い時は職員も増やして、皆んなでホームの周りを散歩し、途中で近所の人とも触れ合ってサツマイモを買ったり、公会堂に寄って帰ったりする。 「利用者と共に作るスケジュール」「出来る事と出来ない事のポイントを見極める」「木もれ日の如く、穏やかに接し、決してこせこせしないように」が、このグループホームのキーワード。これらの意を汲み取った若い管理者と職員のはつらつとした姿勢が見られる。	特に改善の余地があると思われる点 次のような提案をした ①利用者同志や職員との会話は、よく行われているようで、それぞれの利用者の思いや希望も引き出している努力の様子が伺える。利用者の心の内を出来るだけ多く表に出してあげる努力を今後ともてあげる工夫を考えて欲しい。 ②行事、献立、その他日常の事について、日頃利用者の意見や意思を尊重しているけれど、このような境遇をもっと拡大して、特に利用者の作る献立をもっと増やしたり、一人の調理担当者にだけ調理を任せず、皆んなで十分手の込んだ家庭料理を作る事も考えて欲しい。 ③申し分ないグループホームの造りであるが、トイレの数がユニットで2ヶ所というのは少ないようで残念に思う。出来る限るなら居室にトイレが欲しかったと思うが、何かの機会があれば増設等検討して貰いたい。
---	---

番号	項目	できている	要改善
17	排泄パターンに応じた個別の排泄支援	○	
18	排泄時の不安や羞恥心等への配慮	○	
19	入居者一人ひとりの入浴可否の見極めと希望にあわせた入浴支援	○	
20	プライドを大切にした整容の支援	○	
21	安眠の支援	○	
22	金銭管理と買い物の支援	○	
23	痴呆の人の受診に理解と配慮のある医療機関、入院受け入れ医療機関の確保	○	
24	身体機能の維持	○	
25	トラブルへの対応	○	
26	口腔内の清潔保持	○	
27	身体状態の変化や異常の早期発見・対応	○	
28	服薬の支援	○	
29	ホームに閉じこもらない生活の支援	○	
30	家族の訪問支援	○	
記述項目	一人ひとりの力と経験の尊重やプライバシー保護のため取り組んでいるものは何か		
	ホーム内の居場所として、食卓や椅子だけでなく、テレビの前のソファ、畳の間の堀コタツ、ウッドデッキ、友達の個室や隣のユニットへと、その時の気分で自由に変化をつけて、その場その場での楽しみ方を持つことが出来るようにしている。このような自由で気ままな生活が出来る中で、一人ひとりの持っている能力を生かし、家事をしたり娯楽を楽しんだりしている。色々な体験をして貰い、希望を叶えてあげるために買物や散歩等外出も採り入れている。又家族からも、個人的に色々な提案や希望を聞き、利用者の特徴を教えて貰い、その人その人一人ひとりに違った眠差して接するようにしている。 職員は事務室等に入り込まないようにして、いつも利用者へ接していて、利用者に安心感を持って貰うようにしている。一人ひとりに対する気配りも良く出来ていて、利用者からも信頼されている。		

番号	項目	できている	要改善
31	責任者の協働と職員の意見の反映	○	
32	家族の意見や要望を引き出す働きかけ	○	
33	家族への日常の様子に関する情報提供	○	
34	地域との連携と交流促進	○	
35	ホーム機能の地域への還元	○	
記述項目	サービスの質の向上に向け、日頃から、また、問題発生を契機として、努力しているものは何か。 毎月、ホーム全体の生活の様子が写真いっぱい印刷された「こもれび新聞」を発行し、個人の様子を手書きで作る「家族通信」を一緒にして家族に届けている。このような詳しい情報が家族に提供されると、家族も安心出来るし有難い。家族も面会やメール、手紙等で意見が言えるきっかけともなり、家族との風通し良く、家族の共に向上していこうとする姿も見受けられる。家族から、手作りの品物を利用者や職員にプレゼントしたり、昔の歌のCD等を届けて、利用者の楽しさも増える。 職員の申し送りノートの中にも、日々のサービス向上のために努力している様子がありありと伺われ、「頑張っているなあ、ここまで考えてくれているのか」と本人や家族の気持ちになってくれて有難いが、更に「意見交換ノート」の中で、1つの問題を取り上げ、職員間で意見や気持ちをぶっつけ合っている様子が伺える。近隣のグループホーム同志で交流し、職員が交替してケアを体験したり、研修に積極的に参加して、今以上の室の向上を目指そうとしている努力には頭が下がる思いである。 今後は地域との交流や地域の人々の参加を得て、高齢化社会の地域ケアの拠点としての中心的立場で努力されることを期待している。		